

校長室だより

国立市立国立第七小学校長 森田弘文

平成26年7月7日 NO.11

生き物いっぱいの学校目指して・・・

人間の生活において、植物や昆虫・動物など生き物が身近にあること・いることは、とても大切なことであると常々考えています。何もない殺風景な庭に、季節の変化を知らせる植物を植えることは、人々の生活に潤いを与え、癒しの効果もあると思います。また、生き物を飼育することは、同じ生命体であるという安らぎの思いや、生命あるものへの慈しみの心が芽生え養われるものだと思っています。

児童の心身の成長など、教育的な側面から考えた場合でも、常に生き物と接するという事は、とても意義深いものであると思います。そこで、教育活動の主体である学校こそ、より良い生命活動の営みが感じられる環境づくりが重要であると考えます。今年度、4月より様々な試みを行って参りましたが、その途中経過をご報告させていただきます。



学校観察池の修復

大きな濾過ポンプ装置だけがただ動き、落下防止のための網で中をのぞき込むこともできない国立第七小学校の学校観察池。「何のためにこの池はあるのかな?」「何か生き物はあるのかな?」と疑問に思いつつも、昨年4月よりそのままであったことを深く反省し、今年度は、児童が常に興味や関心をもって観察できる池づくりを始めました。しかし、何をどうしていいかわからずにスタート。ともかく、網を撤去することから始めたところ、気がついたこと・分かったことは、何と淋しい池かということ。金魚3匹ほどいるだけ、他に生き物の反応は無しという状態でした。よく見るととても立派な池で、制作するのに相当な予算を注ぎ込んだことが分かる池なのに・・・。

そこで、まずなるべく自然の状態にしようと、睡蓮やハス、コウホネなどを購入し植物繁茂コーナーを作成しました。次に地域に見られる魚が観察できるようにということで、府中用水にてフナやハヤなど20匹ほどを教員と捕獲し（四つ手という網を使ったのは、何十年ぶりか）、池に放しました。まだまだ数が足りない、校長先生の自宅近くの川にて、同じく普通河川によく見られるハヤなどを20匹ほど捕獲しました（この時は、びんどうという魚取り器を使いましたが、これも何十年ぶりか）。

大きな池に対して、魚の数はまだまだ少ないようなので、今後も魚を増やそうかと考えています。また、様々な池づくりを参考に、子ども達にとって楽しめる池になるように工夫していきたいと考えています。次号につづく！

